



理事会の様子

►日越大学 2021-2026 年期第 7 回理事会

12月12日、日越大学は2021-2026年期の第7回理事会を開催しました。会議では主に日越大学2030年までの発展戦略および2045年までのビジョンが議論され、日越大学が引き続き「国際化」「持続可能な開発」「大学の自律性強化」「研究型大学モデルとリベラルアーツ教育の精神」を発展の柱として堅持した成長を目指す方向で一致しました。また、「日越大学に関する日越政府間協定」の策定の必要性についても合意されました。これは日越大学の長期的な発展のための基盤となる枠組みであり、二国間協力の拡大、科学技術研究の促進などに必要となります。本理事会の詳細な様子は、ベトナム国家大学ハノイ校のWebページからご確認いただけます。

<https://vnu.edu.vn/vnu-vju-gan-ket-khoa-hoc-cong-nghe-va-dao-tao-nhan-luc-chat-luong-cao-trong-hop-tac-viet-nhat-post39200.html>

今月号の内容

- 日越大学 2021-2026 年期第 7 回理事会
- 農産物の高付加価値化を学ぶ—日越大学教員、高知県で本邦研修に参加
- 次世代施設園芸を学ぶ！さくらサイエンスプログラム in 高知大学
- 千年農業 - CHITOSE AGRICULTURE COMPANY LIMITED と MoU を締結。特別講義を実施
- 日越大学 2025 年度教員学術会議を開催
- 齊藤真美専門家が教員研修および学生向け日本語能力試験 N2 直前対策講座を実施
- ドイツのベルリン福音主義大学を訪問、MoU 調印
- 日越大学学長特別補佐宇佐川毅先生のご紹介
- ベトナム国家大学ハノイ校および日越大学の代表団が来日。東京・熊本の諸機関を視察
- BRIDGE プログラム 2025 を実施!

► 農産物の高付加価値化を学ぶ—日越大学教員、高知県で研修に参加

10月2日から11月12日までの間、高知大学がJICAから受託している本邦研修「地域アグリビジネス振興のためのフードバリューチェーン構築」コースに、学部食品工学と健康プログラムのVu Van In先生が参加しました。14か国17名の開発途上国の行政官や研究者らとともに、農産物の生産（1次産業）、加工（2次産業）、販売・サービス（3次産業）を一体的に進めることで新たな付加価値を生み出す取り組み、いわゆる6次産業化について学ぶため、東京周辺および高知県の行政、農協、食品加工会社、流通事業者、大学、農業生産者などを訪問し、地域アグリビジネスの活性化について理解を深めました。終了後、In先生は「日本の農協が小規模農家の市場アクセスを支援する仕組みが大変印象的だった。フードバリューチェーンの構築や、農産物の高付加価値化のノウハウを日越大学の授業でも活用したい」と語りました。本コースには昨年度、学部スマート農業とサステイナビリティプログラムのNhung先生も参加しており、日本および高知県の農産物高付加価値化のノウハウが、日越大学の教育の中でも活用されることが期待されます。

(本記事は高知大学 渡邊元治先生から寄稿いただきました。)



閉講式にて(左からJICA四国センター田村所長、Vu Van In先生、高知大学受田学長)

► 次世代施設園芸を学ぶ！さくらサイエンスプログラム in 高知大学

12月14日から20日の7日間、高知大学農林海洋学部が実施するさくらサイエンスプログラムに、日越大学学部スマート農業とサステイナビリティプログラム2年生の学生1名が参加しました。本プログラムのテーマは「高知の次世代施設園芸IoP体験」であり、高知大学が進める先進的な施設園芸を題材に、IoP (Internet of Plants) 技術に関する学習と体験の機会が提供されました。ベトナムとインドの5大学から参加した学生8名は、農業の未来を支える技術への理解と関心を一層深めることができました。プログラムは、IoPセンターの視察や実習に加え、高知県の農業、水産業に関する講義や、県内関係機関の視察も行われ、地域に根差した産業を通じた実践的な学びの場となった他、高知大学の学生との交流する多文化交流の機会もあり、国際的な視野を広げる経験となりました。



► 千年農業 - CHITOSE AGRICULTURE COMPANY LIMITED と MoU を締結。特別講義を実施

11月25日に持続可能な農業モデルの開発と長期的なイノベーションを目指すグローバルバイオテクノロジー企業である CHITOSE AGRICULTURE COMPANY LIMITED と協力覚書 (MoU) を締結しました。本合意に基づき、CHITOSE グループと日越大学は教育、研究、および専門的知見の共有において連携を強化します。12月16日には CHITOSE グループの Senior Agricultural Coordinator で、東南アジアにおける農業プロジェクトを担当されている浅野航輝さんが特別講義を行いました。講義では、東南アジア地域の農業を取り巻く現状の紹介やバイオ技術による解決策の解説が行われました。学生は、CHITOSE グループが実際に地域で展開しているプロジェクトの事例を通じて、日本企業がどのように最先端の微生物技術と現代的な栽培手法を組み合わせて高品質な農産物を生産しているのか深く理解する機会を得ました。



署名式の様子

► 日越大学 2025 年度教員学術会議を開催

12月15日、「2025年度日越大学教員学術会議」が開催されました。本会議は教員たちが一堂に会し、真摯かつオープンな雰囲気の中で活発な学術交流を行うことを目的としたもので毎年実施されています。今回の会議では、テクノロジー、エンジニアリング、環境、生命科学から、教育、言語、社会科学、持続可能な開発まで、多岐にわたる分野の14の研究発表が行われました。Nguyễn Hoàng Oanh 副学長は教員陣の鋭い観察眼と研究への情熱を称え、この研究精神を今後さらに強化し、日越大学を「イノベーションと持続可能な開発に根ざした研究志向型大学」へと発展させていく決意を語りました。この1年間で日越大学は以下の目覚ましい成果を収めています。ベトナム国家大学ハノイ校から「優秀な科学者」として3名の教員が表彰 ([関連 Facebook 記事](#))、特許出願受理2件、国際学術会議開催 ([2025年10月号](#))、学生の研究が教育訓練省主催のコンクールで3つの賞を受賞 ([2025年11月号](#))。



教員学術会議の様子



►齊藤真美専門家が教員研修および学生向け日本語能力試験 N2 直前対策講座を実施

11月15日に日本語教育プログラムの教職員を対象に、齊藤真美先生（JICA専門家）がワークショップ「AIと共に考えるこれからの日本語教育—生成AI時代の授業づくりと評価を考える」を実施しました。教職員13名が参加し、生成AIの普及によって教育現場がどのように変化しているのか、また今後教師にはどのような役割が求められるのかについて、具体例を交えながら意見交換を行いました。AIを「使う・使わない」という二項対立ではなく、学習者の思考や評価とどう向き合うかを考える機会となりました。また、12月7日に行われる日本語能力試験（JLPT）に向けて、11月28日には学生を対象としたN2レベル直前対策講座を実施し、4年生を中心に20名が参加しました。学生が苦手とする読解問題を中心に、設問の意図の捉え方や選択肢の絞り方、時間配分など、「どのように考えて解くか」に焦点を当てた指導が行われました。参加した学生からは「試験に向けての具体的な考え方方が分かり、参加してよかったです」といった声も聞かれ、本試験に向けて実践的な学びにつながる講座となりました。

►ドイツのベルリン福音主義大学を訪問、MoU調印

2025年11月25日から修士課程グローバル・リーダーシッププログラムのLương Minh Phương先生と藤野真也先生（JICA専門家）が、ドイツのベルリン福音主義大学（Evangelische Hochschule Berlin, EHB）およびNGO・国際機関を訪問し、研究・教育・実務に関する意見交換を行いました。EHB訪問中は、協力覚書（MoU）の最終調整や、国際助成金を活用した教育・研究交流の可能性を確認しました。また、学部・修士課程のセミナーで講義を行い、ベトナムの少数民族や日本企業のサステナビリティ実践について議論を深めました。今回の訪問を通じ、開発や社会福祉の領域におけるドイツ、ベトナム、日本の知見及び実践を結ぶ協力の具体像が明確となり、2027年に予定されるベトナム少数民族の共同調査活動を含め、三国連携による国際協力モデル構築に向けた重要な一步となりました。12月17日にはオンラインで署名式が行われました。



訪問中の様子



署名式の様子

Real Voice



日越大学学長特別補佐 宇佐川毅先生のご紹介

今月号では日越大学プロジェクトに学長特別補佐としてご協力いただいている宇佐川毅先生（JICA 工学教育アドバイザー）をご紹介します。

[日越大学に着任する前は何をされていましたか？](#)

熊本大学で、音響信号処理やeラーニングの研究に従事し、2021年から半導体関係の教育プログラムの設置に関する業務に従事してきました。



学長特別補佐 宇佐川毅先生

[先生の研究分野について教えてください。](#)

音響信号を中心とした人とコンピュータのインターフェースに関する研究を行っていました。携帯の音楽で使われているMP3は、人の聴覚の計算機モデルを利用することで非常に効率よく情報圧縮を行っていますが、人にとって意味を持つ情報のみを伝送するという考え方に基づいています。教育研究を進める際、「情報は人が認知できて初めて価値を持つ」という考え方に基づき活動してきました。

[日越大学の半導体プログラムの特徴について教えてください。](#)

現在ベトナムでは、多くの半導体関連企業が活発に活動しており、政府もさらなる飛躍を目指して積極的に教育研究を支援しています。そのような社会的な環境の中、日越大学の半導体チップ技術プロ

グラムが本年（2025年）9月に開講し、多くの優秀な学生が入学してくれています。他の大学では、現時点で企業が活動している分野に注力したプログラム編成がなされている中、日越大学のプログラムは将来のベトナムの半導体産業の姿を想定した網羅的なプログラム体系となっています。

[日越大学の印象を教えてください。](#)

新入生に一度だけ講義した際の印象になりますが、皆さん大きな夢をもっておられるとの印象でした。1年次の学生に向け、英語で講義を行いましたが、皆さん熱心に聴講くださり、講義中の投げかけに積極的な反応が返っていました。講義後の質疑の時間は、最初は遠慮されていた感じもありましたが、途中から想定していなかった質問が飛び出すなど、半導体への関心の強さに驚かされました。



学部半導体チップ技術プログラムの講義の様子

►ベトナム国家大学ハノイ校および日越大学の代表団が来日。東京・熊本の諸機関を視察

12月1日から7日までの間、ベトナム国家大学ハノイ校 (VNU) Nguyễn Hiệu 副総長、日越大学 Nguyễn Hoàng Oanh 副学長ら合計8名のVNU、日越大学代表団が東京、熊本を訪問しました。東京では、関係省庁やJICA等との協議を行った他、東京科学大学(旧東京工業大学)のクリーンルームの視察も行いました。それぞれの訪問先では、Oanh副学長から、これまでの日越大学の取り組みや今後より研究を重視したアジアの中核大学となるビジョン等が説明されました。熊本では、宇佐川毅先生にご調整いただき、熊本大学小川久雄学長への表敬訪問が実現した他、井原敏博工学部長等と両大学の概要説明および意見交換を行いました。特に半導体分野における教育・研究体制について活発な議論が交わされ、関連施設の見学を通じて、最先端の研究環境に対する知見を深める貴重な機会となりました。

►BRIDGE プログラム 2025 を実施!

10月から12月にかけて大学職員交換研修プログラム (Building Reciprocal Insights through Diverse Global Engagements, BRIDGE プログラム) が実施されました。法政大学、早稲田大学、立命館大学、拓殖大学を中心に実施され、計4組9名の職員が研修に参加し、日本の大学での業務の進め方や日本の文化などを学びました。研修に参加した職員には、研修で得た知見を活かして日越大学内での業務を改善すること、その知見を日越大学内で共有すること、受入大学との関係維持、強化に貢献することが期待されます。2026年1月にはBRIDGE プログラム 2025 の合同報告会を開催されます。2026年1月号のメルマガでもその様子を取り上げる予定です。(関連記事
[2025年8月号](#), [2025年9月号](#))



日越大学職員と法政大学 Diana Khor 総長との面談

■日越大学の情報発信

日越大学ホームページ

<https://vju.ac.vn/>

日越大学 Facebook

<https://www.facebook.com/vnu.vju/>

JICAプロジェクトページ（ODA 見える化サイト、メルマガのバックナンバーもこちらから）

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1901195/index.html>

■産学連携・採用に関する問い合わせ

E-mail: cooperation@vju.ac.vn

■メルマガに関するお問い合わせ

E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn

JICA 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト メルマガ編集部

【メール配信停止・変更】

配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、上記問い合わせ先までメールにてご連絡ください。